

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

保険者名	大仙市
------	-----

タイトル	高齢者の自立支援、介護予防の推進
------	------------------

	・地域が目指すべき姿 など
大目標	高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができる
	・目指すべき姿を実現するための具体的な目標
中目標	認知症の方が自分らしく地域で暮らし続けることができる 高齢者が活動的に暮らすことができる
	・目標達成のための具体的な施策 など
小目標	地域の方の認知症についての理解を向上させる 地域の高齢者の外出頻度が増える

### 現状と課題

厚生労働省の平成30年の推計によると、65歳以上の高齢者の約7人に1人が認知症と見込まれており、本市に当てはめると4,300人以上となります。さらに軽度認知障害（MCI）の推計を合わせると7,500人を超え、高齢者の実に約4人に1人が認知症又はその予備軍ということになります。認知症は多くの方にとって身近なものであり、正しく理解してもらうための普及啓発が課題となっています。

また、日常生活圏域ニーズ調査の今後充実してほしい高齢者施策において、「健康づくりや介護が必要にならないための予防支援」が上位に位置しています。高齢者一人ひとりによって心身の状態は異なり、運動・口腔機能の向上や栄養改善及び認知機能の維持向上に関する取り組みが必要です。これまで、高齢者の通いの場（サークル・サロン等）づくりを推進してきましたが、同調査の結果から「健康についての情報に関心はあるが、グループでの活動には参加したくない」方も一定数おり、個人で参加し運動に取り組める機会の創出も課題となっています。

### 具体的な取組

〈 認知症サポーター等養成事業 〉

認知症について正しく理解し、地域や職域（商店や金融機関等）、学校教育において、認知症の方や家族を手助けする認知症サポーターの養成講座を開催します。また、養成講座受講者が講座で得た知識を生かし、地域の助け合いの担い手として活躍できるよう、更なる知識の習得と受講者同士が意見交換できる機会を設け、インフォーマルな地域の支え合いの体制を構築していきます。

〈 介護予防普及啓発事業 〉

【健康めえるが（見える化）測定・相談会】 ※令和6年度からの新規事業

地域の高齢者が、身近な場所において自身の体力や加齢に伴う運動機能の状況を把握できる機会として実施します。測定会では筋力・栄養・口腔状態・生活活動・目や耳等について測定やチェックリスト等を用いてフレイル・プレフレイルのチェックを行う。その測定結果をもとに、個人の状況や希望に合わせて通年型運動教室や栄養教室等に繋げて、フレイル・プレフレイル状態の改善を図ります。

より多くの高齢者に参加していただけるよう、参集型と出張型の2パターンで実施します。

【通年型運動教室 シニアいきいき体操塾】 ※令和6年度からの新規事業

健康に関心があり、個人で介護予防に取り組みたい市民に運動できる場を提供する。

健康運動指導士による運動や定期的な体力測定、保健師・管理栄養士等による個別相談を実施します。

目標（事業内容、指標等）

認知症サポーター養成講座受講者数の増加を目指す。

	実績		見込量	
	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
養成講座 累計受講者数	7,431人	7,734人	7,850人	8,000人

通年型運動教室参加者延人数の増加を目指す。

	実績		見込量	
	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
通年型運動教室 参加者延人数	—	424人	540人	540人

目標の評価方法

- 時点
  - 中間見直しあり
  - 実績評価のみ
- 評価の方法
  - ・ 認知症サポーター養成講座の受講者数の把握
  - ・ 通年型運動教室参加者延人数の把握

取組と目標に対する自己評価シート

保険者名	大曲仙北広域市町村圏組合（大仙市）
------	-------------------

年度	令和6年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容

- ・ 認知症サポーター養成講座 （前期 開催回数：6回、受講者数：104人）
- ・ 通年型運動教室 R6.8～開始 （前期 開催回数：6回、参加者数：88人）

自己評価結果

※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること

【○】

〈 認知症サポーター養成講座 〉

- ・ 学校関係や、民生児童委員協議会等への周知を行い開催に結びつけることが出来た。

〈 通年型運動教室 〉

- ・ 市HPやからだカルテアプリ<sup>※1</sup>等を通じての参加募集や、運動教室に参加したことがある方々への勧奨により、定員以上の申込みがあった。また、インセンティブとして健幸ポイント<sup>※2</sup>の付与があり、ポイント活動が目的の一つという参加者もいることから、運動する高齢者数の増加にも繋がっている。

※<sup>1</sup> からだカルテアプリ

タニタが提供しているヘルスケアアプリ

※<sup>2</sup> 健幸ポイント

タニタと連携・協力して実施している「健幸まちづくりプロジェクト」のポイント

課題と対応策

〈 認知症サポーター養成講座 〉

- ・ 広報等で周知に努めているが、さらなる受講者の増加に向けて、各サークルや、講演会等で周知していく。

〈 通年型運動教室 〉

- ・ 参加者が多くなったことで会場の変更やスタッフ数の増加等検討が必要となった。

## 後期（実績評価）

実施内容	
認知症サポーター養成講座	（後期 開催回数：9回、受講者数：198人） （全体 開催回数：15回、受講者数：303人）
通年型運動教室	（後期 開催回数：18回、参加者数：336人） （全体 開催回数：24回、参加者数：424人）
自己評価結果	
※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること	
【○】	
〈 認知症サポーター養成講座 〉	
・企業や、学校関係、各サークルなどにPRして開催に結びつけることが出来た。	
〈 通年型運動教室 〉	
・今まで自主サークルや各種教室等へ参加したことがなかった市民の参加が多く、運動する市民や運動の機会が増えたことは良かった。毎月募集の記事を見て、新規の応募者が増えたことは良かった。	
課題と対応策	
〈 認知症サポーター養成講座 〉	
・認知症サポーター養成講座の講師役となるキャラバン・メイトが、自主的に講座を開催するための体制づくりに向け、メイトに対し協力を呼びかけていく。	
〈 通年型運動教室 〉	
・会場が市内3か所なので、会場に遠い地域の参加者が少ない傾向にある。今後、各地域にも会場を増やす等検討が必要である。また、なるべく個々の参加者の運動能力等に合わせた内容を検討し、運動が苦手な人でも参加しやすい事業としていく必要がある。	

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

保険者名	仙北市
------	-----

タイトル	住み慣れた地域で安心して生活することができる
------	------------------------

大目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域が目指すべき姿 など</li> </ul> 優しさにあふれ健やかに暮らせる幸福度No.1 のまち
中目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目指すべき姿を実現するための具体的な目標</li> <li>・ 認知症になっても住み慣れた地域で安心した生活を送る事ができる</li> <li>・ 自主的・継続的に健康づくりや社会参加に取り組むことができる</li> </ul>
小目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標達成のための具体的な施策 など</li> <li>・ 認知症を特別視しない認識が広まる。</li> <li>・ 外出頻度が増え、閉じこもり予防ができる</li> </ul>

### 現状と課題

本市の高齢化率は45%を超え、人口減少が進んでいる。また近年では、独居の方の相談事例が多く、その背景として家族が遠方に住む方や頼れる家族や親類のいない方も増えてきている。今後、要介護者や認知症の方の増加が見込まれるなか、高齢者の孤立や閉じこもりを防止するためにも生きがいを持って暮らしていける取り組みが重要になる。併せて認知症についての正しい知識の普及を行い、認知症になっても自分らしく暮らし続けることができる地域づくりを推進していく必要がある。

### 具体的な取組

（取り組みの対象者、参加者など）

- ①小中学校、企業、市民、市役所職員向け認知症サポーター養成講座を開催する。サポーター、地域、本人を対象にステップアップ講座を開催しチームオレンジを1か所以上設置する。
- ②事業対象者や要支援認定者を含む市民を対象に、通所型サービス B、訪問型サービス D を実施する。

（取組の内容）

- ①幅広い年齢層と分野の人を対象に認知症サポーター養成講座を開催し、認知症についての正しい知識の普及に努める。また、チームオレンジ設置の取り組みについても進めていく。
- ②通所型サービス B：主体となる住民団体に対し、事業対象者、要支援を含む市民の通いの場づくりに係る経費を支援することにより、閉じこもり予防や介護予防を図る。

訪問型サービス D：通院とそれに伴う買い物、または通いの場への送迎及び前後の付添支援を行う団体に対し補助金を交付する。

### 目標（事業内容、指標等）

- ①認知症サポーター養成講座受講者：500 名  
ステップアップ講座を開催（1 回）
- ②通所型サービス B：期間内に 5 団体  
訪問型サービス D：期間内に 1 か所以上設置

### 目標の評価方法

- 時点

- 中間見直しあり

- 実績評価のみ

- 評価の方法

施策の展開状況（整備状況、利用状況、運営状況）など

- ①認知症サポーター養成講座受講者の推移

- ステップアップ講座の開催

- ②通所型サービス B：団体数の推移

- 訪問型サービス D：利用者数の推移

参加者への影響など

- ①受講後のアンケート結果を分析し、認知症に対する認識の変化を確認する。

- ②孤立や閉じこもりを予防し、健康長寿につながる。

地域への影響など

- ①新しい認知症観が広まり、認知症の方が地域で安心して暮らしていける。

- ②地域でのつながりが深まり、支え合いの地域づくりにつながる。



②通所型サービスB：3 団体  
訪問型サービスD：1 か所設置

## 自己評価結果

※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること

### 自己評価【△】

- ①認知症サポーター養成講座受講者については、413名と目標の達成はできなかったが、企業向け開催ができなかったことが要因と考えられる。
- ②通所型サービスBは、既存の団体に周知及びチェックリスト実施し、3 団体に補助した。訪問型サービスDは9月に1 団体設置。利用者は1 名、利用回数8 回。

## 課題と対応策

- ① 認知症サポーター養成講座については、定期的開催出来る状況になっている。来年度に向け、市内高等学校の開催を計画している。市役所、住民向けの講座は開催出来たが、企業向けの講座を開催することが出来なかった。今後は、商業施設や金融機関、公共交通機関などで実施できるよう広報等での周知に加え、認知症地域支援推進員を中心に訪問による事業説明を行う等働きかける。
- ② 通所型サービスBは、既存の団体からスムーズに移行できた点はよかったが、メンバーが固定化されており新規参加者がいなかった。引きこもり気味の要支援者等を参加につなげるため、広報等での周知および総合相談や一般介護予防事業等と連携し、心身が虚弱な状態になる前に対象者の把握に努める。
- また、要支援者等が本サービスを利用するにあたりケアマネジメントの実施についての説明不足があり、ケアマネが関わることに難色を示す参加者もみられたことから十分な説明を行う必要がある。
- 訪問型サービスDは現在1 団体である。地域によっては通院先に対応できないまた、金銭的負担が大きくなる場合があり、ニーズとサービス内容のマッチングが難しく利用者が伸びてない。ケアマネへの周知とともに他地域での団体の設立に向けた周知・説明を行っていく。

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

保険者名	美郷町
------	-----

タイトル	高齢者の自立支援・介護予防の推進
------	------------------

大目標	・地域が目指すべき姿 など
	高齢者が住み慣れた地域で自分らしい生活が続けることができる
中目標	・目指すべき姿を実現するための具体的な目標
	認知症になっても地域で生活を続けていくことができる環境づくり
小目標	・目標達成のための具体的な施策 など
	地域の方に認知症についての理解を深め、自分事として考えてもらう 認知症の方やその家族の相談先の確保と居場所づくり

### 現状と課題

本町の高齢化率は41.9%（令和6年8月末時点）となっており、高齢者世帯が増える一方で、支えとなる世代の人口減少が進んでいる。日常生活圏域ニーズ調査では「介護が必要になっても自宅や住み慣れた地域で過ごしたい」という人は本町では半数を超えており、中でも「認知症になっても住み慣れた地域で生活したい」人は、60%以上となっている。認知症になっても住み慣れた地域で生活するためには、地域全体で支え合う必要があり、誰もが安心して暮らせる環境づくりを整える必要がある。

### 具体的な取組

- ◎認知症地域支援事業
  - ・認知症になっても地域で自分らしく生活していくために、認知症の方と家族、地域の方々が相談できる居場所づくりとして年間12回以上開催し、認知症カフェのさらなる充実を図る。
- ◎認知症サポーター等養成事業
  - ・若い世代から認知症についての正しい知識と理解を深め、全世代による認知症支援づくりを目指す。町内の学校の児童生徒、地域活動団体、一般の方々などを対象に認知症サポーター養成講座を年間4回以上開催し、認知症についての正しい知識と理解、対応の仕方について学ぶ場を設ける。
  - ・認知症カフェとの連携を図りながら、認知症サポーターやキャラバンメイト、認知症地域支援推進員など認知症の理解を深めた協力者がさらに周りの関係者にも声をかけ合い、ステップアップ講座を年1回以上実施して認知症の方に対する支援の輪の強化拡大を図る。

## 目標（事業内容、指標等）

認知症カフェの開催回数

認知症サポーター養成講座の開催回数

認知症ステップアップ講座の開催回数

## 目標の評価方法

### ● 時点

中間見直しあり

実績評価のみ

### ● 評価の方法

認知症カフェの開催回数（年間12回以上）

認知症サポーター養成講座の開催回数（年間4回以上）

認知症ステップアップ講座の開催回数（年間1回以上）

## 取組と目標に対する自己評価シート

保険者名	美郷町
------	-----

年度	令和6年度
----	-------

### 前期（中間見直し）

<b>実施内容</b>
<p>①前期の認知症カフェは7回開催した。異なる事業所の連携協力により毎月開催できる体制を整えている。</p> <p>②認知症サポーター養成講座は、町内の高校で1回、一般向けに2回開催。小学生向けのキッズサポーター養成講座を町内の小学校で1回開催。受講した高校生のサポーターはボランティアとして認知症カフェにも参加している。</p> <p>③認知症サポーターステップアップ講座は、初めての試みということで準備に時間を費やした。サポーター養成講座受講経験のある高校生を受講の対象とし、後期の開催実現に向けて高校の担当教員やキャラバンメイトと連絡を取り合った。</p>
<b>自己評価結果</b>
※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること
<p>①実績7回／目標12回以上：達成率58.3%</p> <p>②実績4回／目標4回以上：達成率100.0%</p> <p>③実績0件／目標1回以上：達成率0%</p>
<b>課題と対応策</b>
<p>①②③</p> <p>認知症カフェ、キャラバンメイト向けのステップアップ講座、チームオレンジ立ち上げなどの認知症関連事業については、講座を修了したサポーターの関わり方などを含めてチームオレンジコーディネーターを中心に構想を練る必要がある。</p>

### 後期（実績評価）

<b>実施内容</b>
<p>①後期の認知症カフェは7回開催。事業所に委託しているが、異なる事業所との連携協力、地域包括支援センターが積極的に関わったこともあり、目標としていた毎月の開催を達成することができた。</p> <p>②後期の認知症サポーター養成講座は、キッズサポーター養成講座として町内小学校向けに2回開催した。受講した高校生サポーターからは、認知症カフェや町開催のイベントで認知症予防コーナーのボランティアとして協力をいただいている。</p> <p>③認知症サポーターステップアップ講座は、町内の高校で認知症サポーター養成講座の受講経験があり、卒業後に介護職を目指す生徒を対象に開催した。座学ではなく、町内に勤務する介護職員（キャラバンメイト）と積極的な意見交換を行うなど、さらに実践的な認知症ケアについて学ぶことができた。</p>

## 自己評価結果

※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること

①実績14回／目標12回以上：達成率116.6%

②実績6回／目標4回以上：達成率150.0%

③実績1件／目標1回以上：達成率100.0%

## 課題と対応策

①②③

認知症カフェ、キャラバンメイト向けのステップアップ講座、チームオレンジ立ち上げなどの認知症関連事業について、講座を修了したサポーターの関わり方などを含めてチームオレンジコーディネーターを中心に構想を練る必要がある。